

JENキャリアラダー

看護の核となる実践能力 ： 看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

組織的役割遂行能力 ： 組織の一員として経営に参画することができる

自己成長力・指導力 ： 自己の成長のために必要な能力を積極的に習得することができる

江戸川病院 看護部 教育委員会
2022/5/1作成

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベルの定義		当院の看護手順、各種マニュアルに従い、助言・指導・支援を得て、メンバー・リーダーの役割を意識して看護実践・看護展開をする。	（専門家として）知識・技術に基づいて看護過程を展開し、ケアの受け手および周囲の環境に働きかけ、自ら看護実践ができる。	ケアの受け手の背景や、環境、意思を確認し、かつ理解して看護過程を展開し、チーム医療を意識して、効果的な「その人らしさ」を生かす看護実践を協働して創り出すことができる。	幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実践する。	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する。
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	レベル毎の目標	日々のケアや、チームメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、ケアの受け手の訴えを理解的態度をもって傾聴し、その必要な支援を言語化できる。	専門的な知識・技術に基づいて、ケアの受け手の訴えを、共感的态度をもって傾聴し、そのケアの受け手に必要な支援を言語化できる。	専門的な知識・技術に基づいて、ケアの受け手の訴えを、需要的態度をもって傾聴し、そのケアの受け手のその人らしさを考え、必要な支援を言語化できる。	ケアの受け手や状況（場）を統合しニーズをとらえる。	ケアの受け手や状況（場）の関連や意味を踏まえニーズをとらえる。
		行動目標	□日々のケアや、チームのメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、ケアの受け手の訴えを、理解的態度をもって傾聴し、看護記録や計画に手順に沿って記録できる。 □助言や支援を得て、電子カルテなどから、身体的・精神的・社会的な情報を収集できる。また、得られた情報を必要な記録や計画に反映できる（言語化できる）。 □ケアの受け手の状況を考え、優先度や緊急度を考え、日々のケアやリーダーと相談し行動できる。	□自ら考えて、情報収集に必要な媒体にアクセスして、ケアの受け手を全人的に理解するための、必要な情報収集ができる。 □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像として、自ら言語化できる。	□専門的な知識技術に基づいて、自ら考え、情報収集に必要な媒体にアクセスし、ケアの受け手に必要な情報を全人的にと捉え、 "その人らしさ"を看護過程、記録、計画に反映する。 □その得られた情報から優先度の高いニーズを捉え、ケアの受け手に提案することができる。	□予測的な状況判断の下身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる。 □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる。	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる。 □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる。
	ケアする力	レベル毎の目標	日々のケアや、チームのメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、各種手順にのっとり、かつ最新の医療安全・感対策・褥瘡対策の知識を学び看護実践を提供する。	看護過程を通じて、看護計画を立案し、ケアの受け手に応じた看護実践を提供する。その看護実践は当院の各種手順を遵守し、かつ最新の医療安全・感染対策・褥瘡対策の知識を学び提供する。	看護過程を通じて、看護計画を立案し、ケアの受け手に応じた、その人らしさをより活かす看護実践を提供する。その看護実践は当院の各種手順を遵守し、かつ最新の医療安全・感染対策・褥瘡対策の知識を学び提供する。	様々な技術を選択・応用し看護を実践する。	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する。
		行動目標	□日々のケアや、チームのメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、各種手順に沿った基本的な看護ケアが実施できる。 □助言や支援を得て、ガイドラインや最新の医療安全・感染対策・褥瘡対策の知識を学び、支援を受けながら看護援助を提供できる。	□必要な情報を収集し、看護過程を通じて、看護計画を立案し、ケアの受け手のその人らしさを考慮しつつ標準的なケアを実践できる。 □ケアの受け手に対してケアを実践する際には、当院の手順を遵守し、かつ最新の医療安全・感染対策・褥瘡対策の知識を学び提供する。 □ケアの受け手の状況に応じた、その人らしさをより活かす援助ができる。	□ケアの受け手の"その人らしさ"を尊重し、より活かす適切な看護実践を提供することができる。 □専門的な見地に立ち、ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知し、必要なケアの方法を提案することができる。 □ケアの受け手に対してケアを実践する際には、当院の各種手順を遵守し、かつ最新の医療安全・感染対策・褥瘡対策の知識を学び提供する。	□ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる。 □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的及び予防的に看護実践ができる。	□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる地検（看護及び看護以外の分野）と動員し、ケアを実践・評価・追及できる。 □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を実践できる。
	協働する力	レベル毎の目標	日々のケアや、チームのメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、ケアの受け手に必要な支援を実施するために、多職種の専門性を理解し情報の発信・収集・伝達を行い、基準や院内のルールに基づいて記録に残すことができる。	ケアの受け手に必要な支援を実施するために、多職種の専門性を理解し情報の発信・収集・伝達・提案を行い、看護過程を展開し、基準や院内ルールに基づいて記録に残すことができる。	ケアの受け手に必要な支援を実施するために、多職種の独立した専門性を理解し、支援の目的を共有する。また心理的安全性を確保しながら、情報の発信・収集・伝達・提案・調整を行い、看護過程を展開し、基準や院内ルールに基づき記録に残す。	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる。	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす。
		行動目標	□日々のケアや、チームのメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、ケアの受け手に必要な支援を実施するために、多職種の専門性を理解し、必要な情報を考え、「発信・収集・伝達」を行い、必要な媒体に記録できる。 □助言や支援を受けながら、看護の専門家として、チーム内での役割を理解し行動できる。	□ケアの受け手を取り巻く多職種の専門性、立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報の発信・収集・伝達・提案ができる。 □看護の展開に必要な多職種、関係者を特定できる。 □看護の方向性や、得られた情報から、新たに看護過程を展開し基準や院内ルールに基づいて記録に残すことができる。	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応し、必要な支援を実施するために、その関係者と協力し、心理的安全性を確保しながら、情報の発信・収集・伝達・提案・調整を行い多職種連携を進め、基準や院内ルールに基づいて記録に残すことができる。 □看護の専門家として、ケアの受け手に必要なケアについて情報提供し、かつ意見交換できる。 □積極的に多職種に働きかけ、支援の目的を共有し協力を求めることができる。	□ケアの受け手が置かれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる。 □多職種間の連携が機能するよう調整できる。 □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる。	□複雑な状況（場）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる。 □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる。 □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる。 □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる。
	意思決定を支える力	レベル毎の目標	日々のケアや、チームのメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、ケアの受け手の価値観や感情、想いや意向（望み）を受け止め、カンファレンス等で代弁し、看護記録や看護計画に反映できる。	ケアの受け手の価値観や感情、想いや意向（望み）を受け止め、カンファレンス等で代弁し、看護記録や看護計画に反映する。新たに得られた情報に基づき、看護過程を展開し、看護計画の変更や修正を行う。また決断に至るまで揺れ動くケアの受け手の心理や時間的経過を理解し、受け入れることができる。	ケアの受け手の価値観や感情、想いや意向（望み）を受け止め、その人が決断に至るまでの必要な情報を提供し、かつ空間と時間を確保する。またその決断をカンファレンス等で代弁し、看護記録や看護計画に反映する。新たに得られた情報に基づき、看護過程を展開し、看護計画の変更や修正を行う。また決断に至るまで揺れ動く、ケアの受け手の心理や時間的経過を理解すると共にその人らしさを支持し受け入れることができる。	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる。	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる。
		行動目標	□日々のケアや、チームのメンバー、先輩上司からの助言や支援を得て、ケアの受け手や周囲の人々の価値観やありのままの感情、想いや意向（望み）を受け止め、知ることができる。 □助言や支援を得て、その知りえた情報をカンファレンス等で代弁し、看護記録や看護計画に記録し反映できる。	□ケアの受け手や周囲の人々の価値観や感情、想いや意向（望み）を受け止め自ら考え、カンファレンス等で代弁し、看護記録や看護計画に反映することができる。 □新たに得られた情報や想い、考え希望に基づき、自らが看護過程を展開し、看護計画の変更や修正を行う。 □選択、決断に至るまでの揺れ動く、ケアの受け手の心理や時間的経過を理解し、ケアに活かすことができる。	□ケアの受け手や周囲の人々のそれぞれの価値観や感情、想いや意向（望み）、違いを受け止め、その人が決断に至るまでの必要な情報を提供することができる。 □その決断に至る経過や経緯を（多職種）カンファレンス等で代弁し、看護記録や看護計画に反映することができる。	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる。	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的好および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
組織的役割遂行能力	レベル毎の目標		日々のケアや、チームメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、部署内での役割を遂行できる。	組織の一員としての役割が理解でき、部署の目標達成に向けて、基準や手順を順守した行動がとれる。日々の看護業務においてリーダーシップがとれる。	職場内で組織的役割を遂行できる。コーディネーターの役割や創造的能力を発揮することができる。	職場内で特殊・専門的な能力を必要とされる役割、または指導的な役割を遂行できる。自部署の課題の明確化ができる。	所属を超え、看護部や病院から求められる役割を遂行できる。自部署の課題に対し具体的解決を図ることができる。
	行動目標		□病院の理念、基本方針に基づいた行動を説明できる。 □看護部理念に基づいた看護を自分の言葉で説明できる。 □社会人、組織の一員として相応しい時間管理・健康管理・情報管理ができる。 □社会人、組織の一員として相応しい言葉づかい、挨拶、身だしなみ、振る舞い（態度）ができる。 □組織人としてのモラル（道徳）・ルール（規定）を順守し行動できる。 □助言を受けながら、部署内での役割・責任を自分の言葉で説明できる。	□メンバーとして自律し、他メンバーに協力して行動ができる。 □部署内での役割・責任を自分の言葉で説明できる。 □安全に勤務帯リーダーの業務ができる。 □発生したできごとの要因に気づくことができる。 □部署目標に連動させた自己の目標が立てられる。 □目標達成に向けた行動計画を立案、実施、評価できる。	□リーダーをしている勤務帯で発生した問題を人的資源を活用し解決できる。 □潜在的な問題に気づき、要因を明らかにできる。 □係・委員会活動において現状と問題点を明らかにすることができる。	□患者の問題解決に必要な院内のリソースがわかり、活用できる。 □根拠となるデータを活用し、現状を客観的に分析し、問題を解決できる。 □自部署の目標達成に向けて立案したグループ/チーム目標を達成するための行動計画を立案、実施、評価できる。	□患者の問題解決に必要な地域のリソースがわかり、活用できる。 □問題の本質を捉え、他のメンバーを巻き込み、問題解決ができる。 □師長・係長と協働し、看護部目標達成に向け、看護部目標をブレイクダウンし、自部署の計画を推進できる。

		☐不明なことや疑問に思ったことを、持っている知識や経験と照らし合わせ、根拠や理由を考えることができる。 ☐助言を受けながら、部署目標に連動させた自己の目標が立てられる。 ☐助言を受けながら、目標達成に向けた行動計画を立案できる。				
自己成長力指導力	レベル毎の目標	日々のベアや、チームメンバー、先輩上司から助言や支援を得て、自己の成長に必要な能力を積極的に習得し、他者指導を通して自己の課題を発見することができる。	自己の成長に必要な自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる。	自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる。	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究に取り組み、後輩のロールモデルになることができる。	専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。主となり研究活動を実践でき、後輩へ教育的役割がとれる。
	行動目標	☐継続学習の意義を理解できる。 ☐助言を受けながら、自己のレベルに合った院内外の研修に参加できる。 ☐院内の必須研修に参加できる。 ☐支援を受けながら、学習の成果を自らの看護実践に活用できる。 ☐自己の看護観を言語化できる。 ☐新入職者の職場適応支援に関わることができる。 ☐看護学生に対し、指示された関りができる。	☐自己のレベルに合った院内外の研修に自発的に参加できる。 ☐院内の必須研修に自発的に参加できる。 ☐自己の学習課題を達成するための取り組みができる。 ☐看護専門職として深めたい看護を意識できる。 ☐新入職者の職場適応支援に積極的に関わることができる。 ☐看護学生に対し、指示された関りが積極的にできる。	☐自己のレベルに合った院内外の研修に積極的に参加できる。 ☐院内の必須研修に積極的に参加できる。 ☐自己の役割遂行に必要な学習が計画的・継続的にできる。 ☐看護専門職として将来を見据え、見聞を広めることができる。 ☐後輩に対して、教育計画に基づいた指導を行うことができる。	☐自部署の特色、看護師の看護実践能力に応じた教育計画の立案、実施、評価ができる。 ☐自己のキャリアプランに沿って行動できる。	☐自部署の教育計画が実践できるよう教育担当者等を支援することができる。 ☐教育担当者等が役割遂行できるように支援することができる。 ☐自己のキャリアを追求し続けることができる。